

THE MATHEMATICAL SOCIETY OF JAPAN

日本数学会

*MATHEMATICAL  
OF JAPAN*

<http://mathsoc.jp/>



日本数学会 理事長  
小谷 元子  
President  
Motoko Kotani

日本数学会は、前身である東京数学会社が1877年に設立された学会です。世界においても、専門家集団による最初の学会は1831年に設立されたイギリス科学振興協会ですので、国際的に見ても伝統ある学会と言っても過言ではありません。現在、約5000人の会員を擁し、「数学の研究を盛んにし、またその普及をはかり、関係諸部面とも協力して学術文化の向上発展に寄与する」ことを目的した活動を行っています。特に年会・秋季総合分科会及び日本数学会季期研究所（MSJ-Seasonal Institute）、高木レクチャーなどの学術的会合の開催、学会誌及び図書の刊行や顕彰事業、また、一般市民の皆様、数学の楽しさを実感していただくための市民講演会や藤岡おもしろ数学教室の実施、さらに教育の改革あるいは数学研究の基盤整備などがわが国の数学的なる力の向上のための提言などを行っています。2015年は小平邦彦、伊藤清の生誕百周年記念事業を執り行っていきます。近年は、国際的な交流事業にも力をいれており、大韓数学会や台湾数学会との交流、さらに、国際数学者会議 (International Congress of Mathematicians: ICM)、アジア数学会議 (Asian Mathematical Conference: AMC) への

## 大変革時代に応える 数学研究の発展

参加などを通して、数学研究の推進と普及に努めています。昨年、国際数学連合 (International Mathematical Union: IMU) に本会会員である森重文氏がアジア地域から初めての総裁として選ばれたことはうれしいニュースでした。

学術を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。人類が直面する課題は地球規模かつ複雑になり、これまで以上に最先端科学が分野を超えて解決に貢献することが期待されています。特に、インターネットやコンピュータの発達により「第4次産業革命」ともいわれる大変革が始まり、これまでとは質量ともに異なる情報化社会が始まりつつあります。数学は人類の歴史の始まりから常に学術・科学技術の基礎を提供してきましたが、高度情報化時代の共通基盤となる数学の果たす役割はこれまで以上に大きくなる予感です。このような変革の時代だからこそ、多様なアイデアを育てることが大切です。数学独自の課題を追究し学術を深化・展開するとともに、高度情報化時代に応える数学研究の推進や国民が情報を正しく判断しリスク管理をするためのリテラシーとしての数学の普及にも努めます。

数学会は、このような活動を中心に社会への貢献を続けていこうとしております。皆様のこれまでのご支援にあつくお礼を申し上げるとともに、より一層のご指導をお願いも申し上げます。

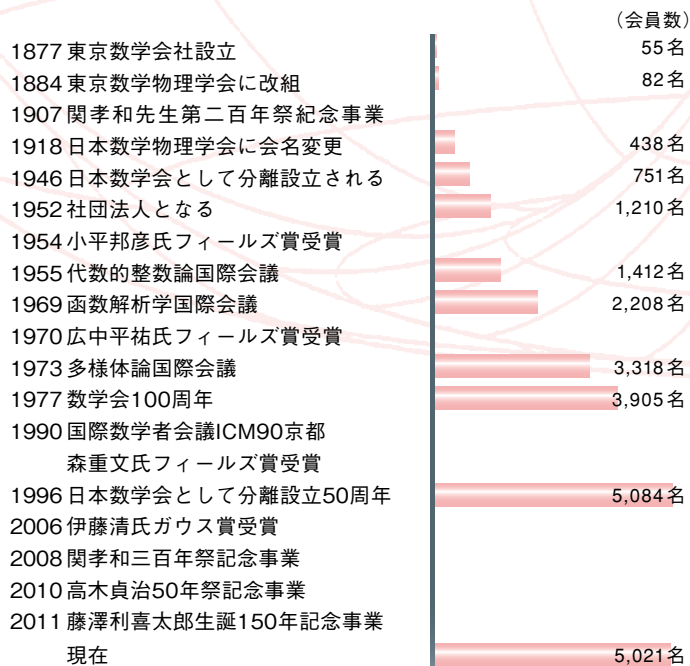
## 日本数学会のあゆみ

江戸時代に日本で独自の発展をした和算の実力を背景に、日本人は明治時代の初めに新しい数学を容易に吸収し消化したことが知られています。

日本数学会の前身である東京数学会社の創立者達は、時代の息吹の中で諸学の基礎としての数学が重要であることを認識し、欧風の数学の導入に努力しました。それから130年、日本における数学研究は目覚ましく発展し、3人のフィールズ賞受賞者および第1回ガウス賞受賞者を輩出するなど、今日では確固とした国際的評価が確立しています。



故 小平邦彦氏 広中平祐氏 森重文氏 故 伊藤清氏





### ① 「数学」

「数学」は、日本数学会設立の翌年、1947年4月創刊の邦文誌で、現在は年4回発行され、岩波書店から発売されています。主に日本数学会会員による、数学に関する論説、企画記事、書評、学界ニュースなどを掲載し、会員には無償配布されています。論説は、専門外の人々にも楽しめ、理解できることを目的にした解説記事として書かれており、その多くは英訳され、アメリカ数学会から「Sugaku Expositions」という雑誌名で発行されています。「数学」の記事は独立行政法人科学技術振興機構(JST)によって順次電子化・無償公開されています。なお、電子版については下記URLを参照下さい。

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/sugaku/-char/ja/>

※電子版の作成および公開は岩波書店の承諾を得て行っています。

### ② 「数学通信」

「数学通信」は日本数学会創立50周年を機に1996年に創刊された会員向けの季刊情報誌です。定期的な記事としては、会報のほか、巻頭言、数学会が主催した市民講演会等の記録、授賞報告、委員会・懇談会報告、会員ニュース、数学教室だより、支部・分科会便り、書評、公募ニュースなどの欄があります。また、その時々の会員にとって有益な話題を特集記事として取り上げています。このように「数学通信」は、会員への情報提供あるいは会員相互の情報交換の場としての役割を果たしています。

### ③ 「Journal of the Mathematical Society of Japan」

日本数学会欧文誌 Journal of the Mathematical Society of Japan (JMSJ) は、1948年に創刊された純粋数学の総合誌で、質の高い国際学術誌として数学コミュニティに貢献しています。JMSJ は日本数学会の機関誌ですが、会員・非会員を問わず国内外から投稿される研究論文を、第一線の専門家による厳格な査読を経て掲載しており、わが国を代表する数学誌として国際的に広く認知されています。季刊誌で年4回発行され、オンライン公開はProject Euclid およびJ-STAGEで行っています。

### ④ 「Advanced Studies in Pure Mathematics」

Advanced Studies in Pure Mathematics (ASPM) は1983年に創刊され、日本数学会によって主催された国際研究集会など重要な研究集会の報告論文集として、現在、日本数学会によって編集、刊行されています。ASPMは、国際研究集会で発表された研究成果に関する研究論文のみならず、理論の創設者によって著わされたサーベイ的な論文なども掲載しており、これから研究を始める若手研究者や、そのテーマの最新の研究成果に関心のある他分野の専門家にとっても、貴重なレファランストとなっています。海外では、アメリカ数学会とWorld Scientific Publishing社によっても販売されており、2015年6月の時点で67巻が刊行されています。

### ⑤ 「Japanese Journal of Mathematics」

1924年創刊のJapanese Journal of Mathematics (JJM; 日本数学誌) は、継続されて刊行されている日本の数学欧文誌の中で最古のものです。日本数学会は、JJMの第3シリーズの創刊にあたり、JJMを「創造性に満ちた研究総説に特化した、権威ある学術誌」として位置づけ、2006年4月に刊行を開始いたしました。JJMに投稿された研究総説論文はすべて専門家によって査読され、その後掲載が決定されます。高木レクチャーをもとに書き下ろされた研究総説論文の最終版も査読後JJMに掲載されます。JJMの出版は日本数学会とSpringer社の協力でなされています。JJMのホームページではアブストラクトの和訳も掲載しています。なお、第1、2シリーズ(1924-1974、1975-2005)はJSTのJournal@rchiveによって電子化・無償公開されています。

### ⑥ 「MSJ Memoirs・数学メモアール」

数学メモアールには、英文と和文と、二つのシリーズがあります。英文シリーズでは、大学院テキストに使用するための講義録や、まとまった一つのテーマについての長編研究論文を刊行しています。和文メモアールは、大学院生をはじめとする若い研究者に、数学の新しい潮流をわかりやすく紹介するモノグラフです。両シリーズとも、純粋数学・応用数学全般を取り扱います。英文シリーズは海外ではWorld Scientific Publishingによって販売されています。

# 学術的会合

## 高木レクチャー

高木貞治先生（1875-1960）のお名前を冠した「高木レクチャー」が、2006年に創設されました。

「高木レクチャー」は、毎年、世界から卓越した数学者を日本に招き、専門分野を越えた数学者や若手研究者・大学院生を主な対象とし、創造のインスピレーションを引き起こすような気概に満ちた研究総説講演を行っていただき、日本発の新たな数学の創造に寄与することを目的としています。

高木レクチャーのブックレットは当日に配布され、それをもとに執筆された研究総説論文が、査読を経た後、JJMに掲載されます。



Prof. A. Connes  
第8回高木レクチャー



Prof. L. Lafforgue  
第12回高木レクチャー

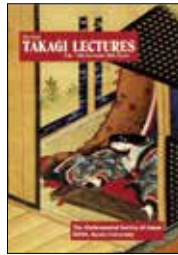


Prof. M. Kontsevich  
第5回高木レクチャー



JJM (日本数学会) のロゴ

このロゴは2005年のJJM存続の危機のときに、当時の理事であった小林俊行氏がJJMの再建の任にあたって、自らデザインしたものだ。大正時代から連続と続くJJMの伝統を尊重し、さらに、日本から新しい数学を発信するという願いがこめられています。JJMの文字でかたどった富士山は日本発信を象徴しています。



高木ブックレット

## 年会・秋季総合分科会

毎年、春と秋に日本数学会は大会を開きます。約1500名の数学者が集い、研究の発表や討論を行うものです。大会では、日本数学会賞春季賞、同秋季賞、同建部賢弘賞、関孝和賞、出版賞などの受賞者の発表や授賞式が行われ、総合講演・企画特別講演・各分科会の特別講演など、数学の動きを知る上で欠かせない重要な講演も行われます。

大会の際には、市民を対象とする、数学の啓蒙的講演会「市民講演会」や、数学と数学教育の役割について意見を交換する「シンポジウム」が開かれます。

## 日本数学会季期研究所 (MSJ-SI)

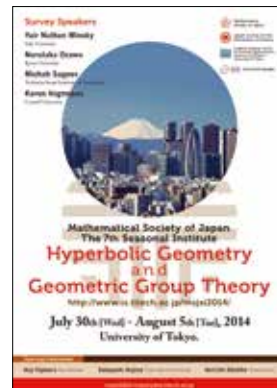
日本数学会は、国際交流や国際研究集会の活動を行っています。

このような活動の一環として、第一線の国外の研究者を招いて日本数学会国際研究集会 (MSJ-IRI) を2006年まで年1回開催しました。2008年からは、これを拡張して発展的に引き継ぎ、日本数学会季期研究所 (MSJ-SI) を開催しています。

とくに、アジアの中の日本という視点から、アジア諸国の数学者との関係を重視し、積極的な交流を推進しています。



第5回MSJ-SIでの講演の様子



第7回MSJ-SI 2014年7月30日～8月5日  
Hyperbolic Geometry and Geometric Group Theory  
東京大学



第8回MSJ-SI 2015年7月1日～7月10日  
Current Trends on Gröbner Bases  
— The 50th Anniversary of Gröbner Bases —  
ホテル日航大阪

# 市民との接点

## 市民講演会

日本数学会では、春の年会と秋季総合分科会の際、会場校の近くで、高校生、大学生、教師、会社員など一般の市民の方に、数学の楽しさを実感していただくための、講演会「市民講演会」を開催しています。

以下のウェブページより、過去の講演の講演記録とビデオが利用できます。

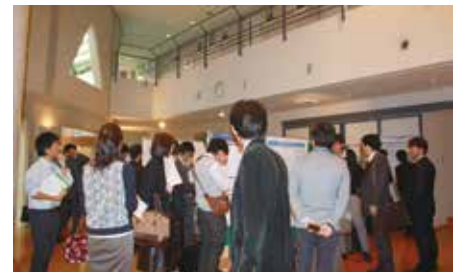
URL <http://mathsoc.jp/outreach/shimin-index.html>

都合で利用可能でないものもあります。



## 数学・数理科学のためのキャリアパスセミナー

日本数学会では博士課程学生の社会への輩出を支援するキャリアパスセミナーを春の年会において2012年よりはじめています。2014年は学習院大学で、2015年は明治大学にて行いました。2014年からは、それを発展させた形で、「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会」を行っています。これは、若手研究者と企業とのマッチングを進めることを目的として、日本数学会主催、日本応用数理学会、統計数理研究所「数学協働プログラム」、東京大学フロンティア・リーディング大学院の共催、日本経済団体連合会の後援により、21社の企業と国内の数学・数理科学系大学機関の協力の下で、基調講演、若手研究者のポスター発表、若手研究者が企業ブースを訪問する個別交流を行いました。



「数学・数理科学専攻若手研究者のための異分野・異業種研究交流会」での様子(2014年10月、於東京大学)

## 藤岡おもしろ数学教室

関孝和にゆかりのある群馬県藤岡市と日本数学会とは、1994年度の日本数学会関孝和賞創設以来交流が続いています。その一環として、当地の中学生を対象とした講演会「藤岡おもしろ数学教室」を毎年1回開催しており、数学会からは講師を派遣しています。



2013年度講師  
舟木直久氏



2013年・2014年  
藤岡おもしろ数学教室



2014年度講師  
根上生也氏

## 出前授業

日本数学会では、多くの子供たちに数学を学ぶ楽しさを伝えるために、2004年度より会員を小中高校に派遣する事業を行っています。会員に対して、そのための講師派遣リストへの登録の依頼も継続的に行っています。この事業では、数学会への依頼があれば、出来る限り条件にあう会員の派遣をお世話します。依頼は日本数学会事務局へお願いします。

# 顕彰事業

## 日本数学会賞 春季賞・秋季賞

日本数学会は1973年に、故彌永昌吉氏からの寄付金を基金として「日本数学会彌永賞」を設け、1987年まで毎年1名、重要な研究成果をあげた当学会の若手研究者に賞を授与してきました。1987年秋に、故秋月康夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金を加えて新たに、日本数学会賞を創立し、従来の彌永賞の趣旨を継承する「春季賞」と、特に優れた業績をあげた当学会の研究者に授与する「秋季賞」を設けました。

その後、故木村俊房氏、故松村英之氏、故丸山滋彌氏、故加藤敏夫氏の御遺族からの寄付金とその他の寄付金も新たに加わっています。



●2013年度  
秋季賞受賞者  
辻井正人氏  
「微分可能性系のエルゴード理論における関数解析的手法」



●2014年度  
春季賞受賞者  
戸田幸伸氏  
「代数多様体の導来圏の研究」



●2014年度  
秋季賞受賞者  
小園英雄氏  
「非圧縮性ナビエ・ストークス方程式の定常・非定常流の調和解析的研究」



●2015年度  
春季賞受賞者  
河原林健一氏  
「グラフマイナー理論とその計算量理論への応用に関する研究」

## 代数学賞

広い意味での代数学の発展に貢献した研究者に授与される賞です。



●2014年度受賞者(左から)  
古庄英和氏、吉野雄二氏



●2015年度受賞者  
加藤周氏

## 解析学賞

2002年には「解析学賞」が設けられました。この賞は、広い意味での解析学の発展に貢献した研究者に授与される賞です。



●2013年度受賞者(左から)  
利根川吉廣氏、綿谷安男氏、渡部俊朗氏



●2014年度受賞者(左から)  
石毛和弘氏、長田博文氏、濱田英隆氏



## 幾何学賞

幾何学賞は、1987年に幾何学研究者有志からの寄付金を基金として設けられたもので、広い意味での幾何学の発展へ貢献した研究者に授与される賞です。



●2013年度受賞者(左から)  
河野俊文氏、山ノ井克俊氏



●2014年度受賞者  
倉西正武氏



## 日本数学会賞建部賢弘特別賞／奨励賞

建部賢弘(1664-1739)は、関孝和の高弟で、独自で三角関数表を作成した人物です。1996年の50周年を記念し、日本数学会建部賢弘賞が創設されました。建部賢弘特別賞・奨励賞の2つの賞に分けられ、特別賞は若くして優れた業績をあげられた人の顕彰を、奨励賞は優れた業績で数学研究を始めた若い人達の奨励をそれぞれ目的として制定されたものです。



●2013年度受賞者  
(2列目左から)  
浜向 直氏(奨励賞)  
田中 公氏(奨励賞)  
金子 元氏(奨励賞)  
糟谷久矢氏(奨励賞)  
小関健太氏(奨励賞)  
(1列目左から)  
プノフ・コリンズ氏(特別賞)  
安田健彦氏(特別賞)  
故 長尾健太郎氏(特別賞)  
(右上)  
谷本 溶氏(奨励賞)

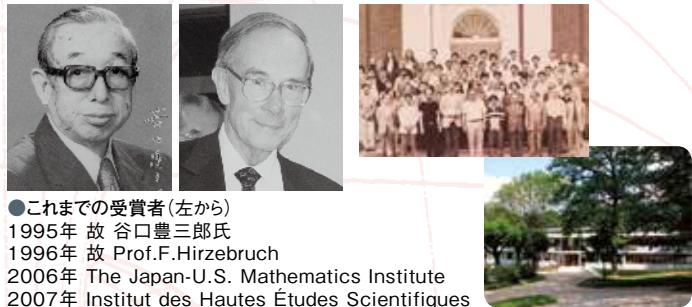


●2014年度受賞者  
(2列目左から)  
中島 誠氏(奨励賞)  
大久保俊氏(奨励賞)  
疋田辰之氏(奨励賞)  
田神慶士氏(奨励賞)  
(1列目左から)  
薄葉季路氏(特別賞)  
Neal Bez氏(特別賞)  
猪奥倫左氏(奨励賞)  
塚本真輝氏(特別賞)

## 日本数学会関孝和賞

関孝和(?-1708)は、関流数学の創始者であり、鎖国時代に日本独自の数学を発達させた人物です。日本数学会関孝和賞は、個人または団体を対象として長年にわたり数学の研究業績以外の功績によって数学の発展に寄与し、それを通して学術文化の向上に特に顕著な貢献をした個人または団体にこれらを授与するものです。

関孝和にゆかりのある藤岡市から、賞状と関孝和のブロンズ像が贈られます。



●これまでの受賞者(左から)  
1995年 故 谷口豊三郎氏  
1996年 故 Prof.F.Hirzebruch  
2006年 The Japan-U.S. Mathematics Institute  
2007年 Institut des Hautes Études Scientifiques

## 出版賞

2004年度には「出版賞」が設けられました。この賞は著作活動により数学の研究・教育・普及に顕著な業績をあげた個人または団体を顕彰する賞です。

- 2014年度出版賞受賞  
結城浩氏  
雑誌「現代数学」(現代数学社)  
金重明 著「13歳の娘に語るガロアの数学」(岩波書店)
- 2015年度出版賞受賞  
伊東俊太郎氏  
赤攝也氏  
一松信氏

## JMSJ 論文賞

JMSJ論文賞(The JMSJ Outstanding Paper Prize)は、卓越した論文の発表による数学への貢献を顕彰するため日本数学会が2010年に新たに設けた賞です。表彰対象は、授賞年前年の Journal of the Mathematical Society of Japan に掲載された論文のうち、特に優れたもの(3編以内)の著者に贈られます。著者の国籍や、論文が単著・共著であるかは問わず、原則として春の年会時に授賞式を行っています。

- 2014年JMSJ論文賞  
65巻4号 [An integration by parts formula for Feynman path integrals]  
By 藤原大輔氏  
65巻4号 [Blow-up problems in the strained vorticity dynamics and critical exponents]  
By 岡本久氏
- 2015年JMSJ論文賞  
66巻2号 [Minimal representations via Bessel operators]  
By Joachim Hilgert氏、小林俊行氏、Jan Möllers氏  
66巻3号 [Geometry of nondegenerate  $\mathbb{R}^n$ -actions on  $n$ -manifolds]  
By Nguyen Tien Zung氏、Nguyen Van Minh氏  
66巻4号 [Functional distribution for a collection of Lerch zeta functions]  
By 見正秀彦氏

## 応用数学研究奨励賞

応用数学研究奨励賞は応用数学分野における研究を奨励し、分野全体の交流・発展を図ることを目的として、2013年9月に日本数学会において設立されました。応用数学に関連する分野において優れた業績をあげた39歳以下の若手研究者に対して、その業績を顕彰するために与える賞です。



- 2013年度受賞者(左から)  
秋山正和氏、Elliott Ginder氏、野口健太氏
- 2014年度受賞者(左から)  
西慧氏、松江要氏、池田幸太氏、小関健太氏

# 加藤敏夫先生 生誕百周年記念事業

加藤敏夫先生は関数解析学の偏微分方程式論への応用で、20世紀の解析学をリードした数学者です。東京大学理学部物理学科を卒業後、戦中戦後の苦境に耐えて、独力で量子力学の数学的な諸問題を解決し、フォン・ノイマンから激賞されました。1960年に朝日賞を受賞、その後、カリフォルニア大学パークレー校の数学科の教授として渡米され、1980年には米国数学会のNorbert Wiener賞を受賞されました。流体力学をはじめとする非線形発展方程式への貢献も深遠で画期的でありました。加藤先生の大著「Perturbation Theory for Linear Operators」は数理物理学・応用解析学の古典であり、今後も長く読み継がれてゆくことでしょう。2017年の夏には加藤先生生誕100周年を記念する国際会議が予定されています。また、加藤先生が遺された写真・スライドなどの展示も企画されています。



全体講演に招待された国際数学者会議(1970年、ニース)における故吉田耕作東大教授(写真右)との一コマ

## 日本数学会の概要

本会の会員は数学の研究者ばかりではなく、教育者、学生などの数学に興味を持つ方々です。また、賛助会員には本会の事業に援助をして下さる法人に加入いただいております。2015年度の会費は次の通りです。

正会員会費…年額18,000円

賛助会員会費…一口年額30,000円

学生や70歳以上の会員には会費の割引制度がございます。

学生割引適用(在学証明書送付者)…年額9,000円

高齢会費適用(在会10年以上で年齢70歳以上、要申込)…年額12,000円

2005年4月から在会30年以上で年齢75歳以上の会員に対し会費を免除する名誉会員制度が、2013年4月から在会25年以上で年齢65歳以上の会員に対する終身会員制度が始まりました。

会員には邦文誌「数学」(季刊)及び「数学通信」(季刊)を配布しています。また名誉会員を除く会員には希望により欧文誌「Journal of the Mathematical Society of Japan」の冊子体を配布しております(賛助会員には「数学」、「数学通信」及び「Journal of the Mathematical Society of Japan」を配布しております)。

外国数学会との交換会員制度があり、現在アメリカ数学会、フランス数学会、ニュージーランド数学会、韓国数学会、ロンドン数学会、ドイツ数学会、オーストラリア数学会、スペイン数学会、チュニジア数学会、中華民国数学会、クロアチア数学会と交換協定を結んでいます。会費等詳細につきましては各国数学会へお問い合わせください。

名 称 一般社団法人/日本数学会(The Mathematical Society of Japan)

事務局 〒110-0016 東京都台東区台東1-34-8 tel.03-3835-3483  
(34-8, Taito 1-chome, Taito-ku Tokyo, 110-0016, Japan)

U R L <http://mathsoc.jp/>

目 的 数学の研究を盛んにし、またその普及をはかり、関係諸部門とも協力して  
学術文化の向上発展に寄与することを目的とする

事 業

1. 学術的会合の開催	6. 数学研究の交流及び数学の研究成果の普及
2. 学会誌及び図書の刊行	7. 社会における数学基盤の整備
3. 数学に関する図書及び雑誌の収集整備	8. 数学の発展及び普及のための調査・研究
4. 数学研究の奨励及び数学に関する業績の顕彰	9. 国内外の関連学会、諸団体との連絡及び協力
5. 数学研究者の育成	10. その他目的を達成するために必要な事業

### 学術的会合の予定

●2015年度秋季総合分科会  
2015年9月13日(日)~9月16日(水)  
京都産業大学

●第16回高木レクチャー  
2015年11月28日(土)~11月29日(日)  
東京大学

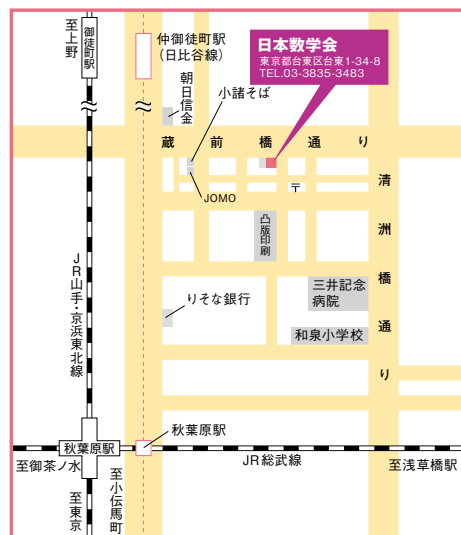
●2016年度年会  
2016年3月16日(水)~3月19日(土)  
筑波大学

●第9回MSJ-SI  
2016年8月1日(月)~8月12日(金)  
Operator Algebras and Mathematical Physics  
東北大学

●2016年度秋季総合分科会  
2016年9月15日(木)~9月18日(日)  
関西大学

●2016年度高木レクチャー 春と秋に開催予定

●2017年度年会  
首都大学東京



### 事務局所在地

蔵前橋通り南側で、台東一丁目交差点から、鳥越一丁目の間にあります。

### ●交通アクセス

#### JR線

秋葉原駅から徒歩約10分

御徒町駅から徒歩約15分

#### 東京メトロ

日比谷線秋葉原駅から徒歩約8分

日比谷線仲御徒町駅から徒歩約10分

銀座線末広町駅から徒歩約8分

(末広町駅から蔵前橋通りを東の鳥越神社の方向に)

#### 都営地下鉄

大江戸線新御徒町駅から徒歩約7~8分

(駅から南へ竹町公園を経て蔵前橋通りへ)

日本数学会では、理事会を中心に日本における数学にかかわる諸問題を検討し、時に応じ声明を出しています。数学会が出した声明は上記の数学会サイト内のURL (<http://mathsoc.jp/proclaim/>) から参照できます。